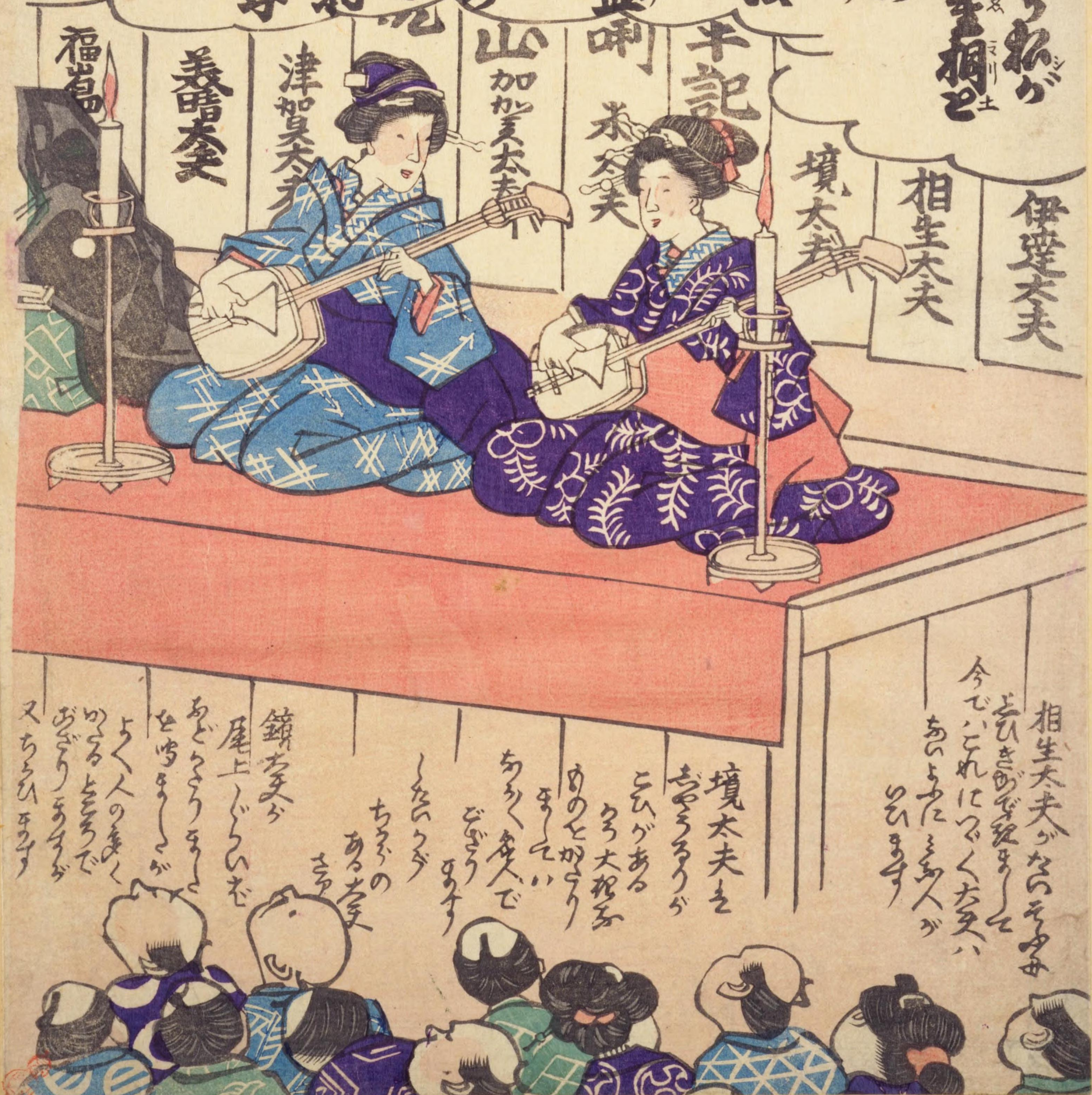
さてもお江戸の中にせふ触りしかゞられが
昔あった刀じけの頃機嫌きゝて一家相ど
[illegible]と思ひ違ひての
金盛の本もとずけ出[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
道具屋が[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]


伊達太夫
相生太夫
境太夫
半記
木太夫
咧
加賀太夫
山
津賀太夫
義晴太夫
福島

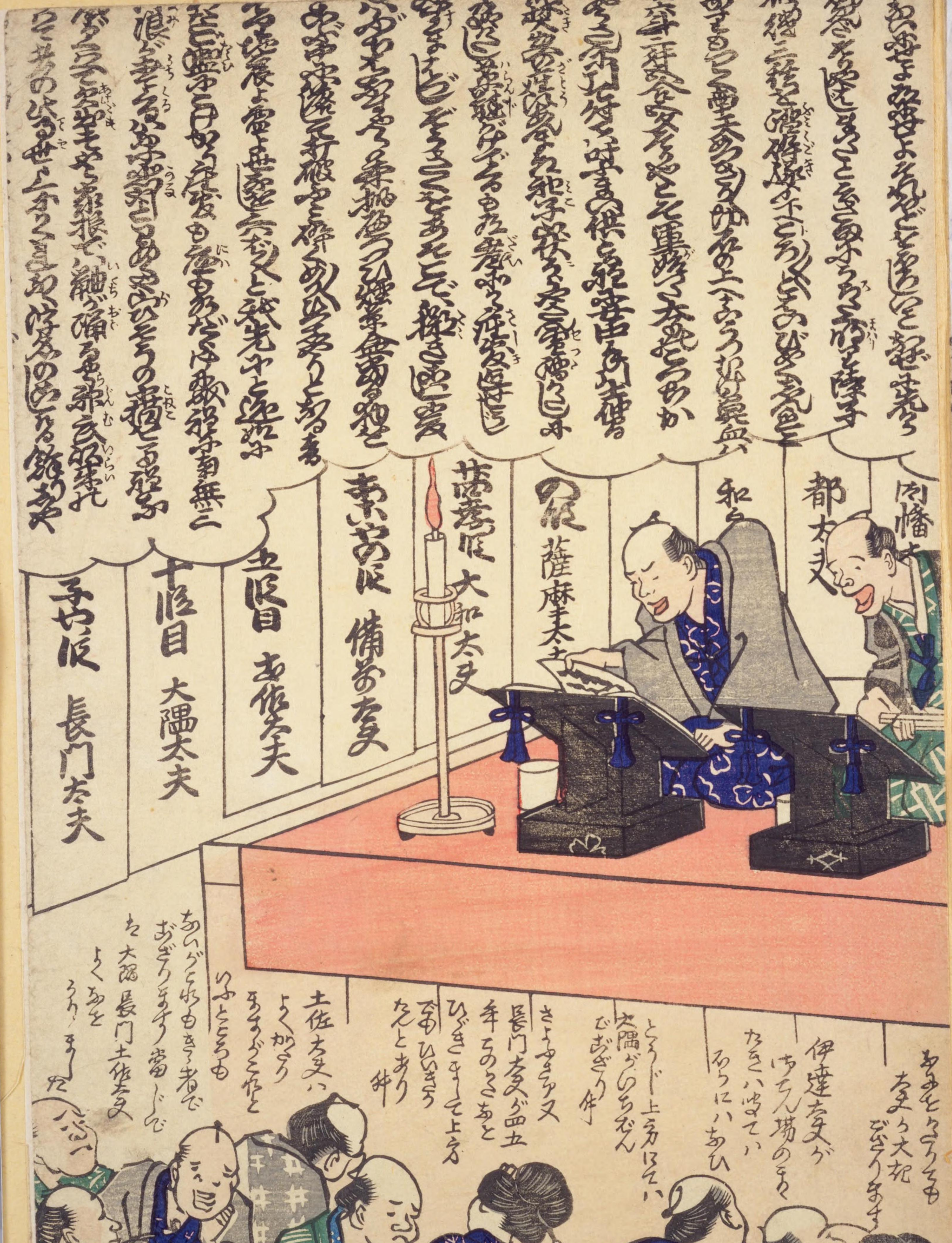
相生太夫がたいそう上ひきが出来まして今ではこれにつゞく太夫ハあのよふな名人がないます

境太夫もおもしろいがこえがある名大経家あのとがよりましていちかく名人でござります

しかしながらちからのある太夫さま

鐘太夫が尾上じぶんをあどうきうまさを申ましたがよく人の気をくかゝるところでおざりますが又ちらひ申ます

諷刺画 寄別8-4-2-3 01-041
国立国会図書館



じあいおせよみせよそれぞとる[illegible]を語り出す

[illegible]を[illegible]とさいふ事ならで[illegible]障子

破れ[illegible]二稽古を[illegible]将[illegible]下ところくじらのびたる気色さ

[illegible]天[illegible]の上へ[illegible]血六

七年三年[illegible]合[illegible]集めて[illegible]か

[illegible]付[illegible]はずまの[illegible]

[illegible]和子[illegible]

[illegible]腹乱[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]無二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内播太
都太夫
和ら
の段 薩摩太夫
芸落段 大和太夫
東宮の段 備前太夫
五段目 土佐太夫
十段目 大隅太夫
子や段 長門太夫

あれまたゝうても
太夫ら大抵
ござりますね

伊達太夫が
けちん場のさく
かきハ次てハ
むかにハあひ

とうじ上方にてハ
大隅がいちばん
でござり升

さようさ又
長門太夫が四五
年このさきあと
ひゞきまして上方
でもひいきが
たんとあり
升

土佐太夫ハ
よくかたり
ますがこれと
いふところも

あいゞこれもきゝ者で
おざりますが當じで
ハ大隅長門土佐太夫
よくあを
うりました

諷刺画 寄別8-4-2-3 01-042

国立国会図書館